

国立大学法人島根大学経営協議会（第152回）＜議事要録＞

日 時 令和8年5月12日（火）14:00～15:30

場 所 松江キャンパス本部棟5階 大会議室（対面及びオンライン）

出席者 大谷学長，増永理事，松崎理事，金山理事，椎名理事，宮内理事，宮脇理事，毛利理事，
大西委員，高塩委員，三輪委員，室崎委員，山口委員，吉山委員，渡辺委員

欠席者 上定委員，久保田委員

オブザーバー 吉田監事，栗原監事

議決事項1 学長選考・監察会議委員の選出について

- 増永理事から資料に基づき，学長選考・監察会議委員の選出について説明があった。
- 委員から特段の意見が無かったため，増永理事から，大学運営に精通している大西委員，地元経済界のご経験が豊富な久保田委員，文部科学行政に精通している高塩委員，地域福祉のご経験が豊富な室崎委員，医療分野のご経験が豊富な山口委員，地方行政に精通しており本学の法文学部同窓会長でもある吉山委員，経済・産業界のご経験が豊富な渡辺委員を加えた7名について，各分野における組織運営等に関する知見を有し，同会議の役割を適切に果たし得ること，及びこれまでの学長選考・監察会議の審議経過に通じていることから引き続き選出してはどうかとの提案があった。
- 審議の結果，上記7名の選出について異議なく議決された。

報告事項1 寄附講座「地域医療支援学講座」の更新について

- 増永理事から資料に基づき，寄附講座「地域医療支援学講座」の更新について報告があった。
- 学外委員から，寄附講座における直接経費と間接経費の配分割合についての質問及び寄附講座の場合でも大学全体の管理運営費等に充当する間接経費を確保していくべきとの意見があり，次回会議において現状を報告することとなった。
- 学外委員から，地域枠入学以外の学生も広く巻き込んだ活動の展開に期待したいとの意見があり，椎名理事から，本講座は地域枠入学生に限定せず，分け隔てなく地域理解やキャリア形成の支援を行っているとの発言があった。

報告事項2 寄附講座「イノベーション統合理工学講座(Integrated Science and Engineering for Innovation)」の設置について

- 増永理事から資料に基づき，寄附講座「イノベーション統合理工学講座(Integrated Science and Engineering for Innovation)」の設置について報告があった。
- 学外委員から，間接経費の取扱いについて，寄附金の受入れや運営に伴う事務負担や，寄附が特定分野に偏在することにより学内の不均衡が生じ得ることを考慮し，大学全体への寄与の観点から整理が必要との意見があった。
- 学外委員から，実験機器の調達及び学生の配属方法について質問があり，増永理事から，必要な機器は先方から持ち込まれる予定であること，学生は入学時から本講座に所属するものではなく，希望に応じて相談の上で配属されるとの回答があった。

報告事項3 令和7年度資金運用報告について

- 宮内理事から資料に基づき，令和7年度資金運用報告について報告があった。

報告事項4 附属病院運営状況について

- 椎名理事から資料に基づき、附属病院運営状況について報告があった。

報告事項5 理事の担当業務における本学の強みと課題について

- 松崎理事から資料に基づき、理事の担当業務における本学の強みと課題について報告があった。
- 学外委員から、へるん入試合格者に対する入学前教育及び入学後の学修支援に係る課題について質問があり、松崎理事から、入学前教育については合格決定から入学までの期間の有効活用につなげるため、大学から事前課題等を課すなどの取組を行っているものの伴走支援が十分でないこと、入学後の学修支援については、学生間で学力や学び方にばらつきがあるため、リメディアル教育やピアサポート等の支援は用意しているものの活用が十分とはいえず、生成 AI の活用も含めた学修支援の充実を図る必要があると考えているとの回答があった。
- 学外委員から、本学における生成 AI 利用ガイドラインの概要について質問があり、松崎理事から、生成 AI 利用ガイドラインについては現時点では枠組みを定めた段階であり、実践の蓄積を通して運用の改善を進めていきたいと考えているとの回答があった。
- 毛利理事から、生成 AI の活用について、現在の学生にとって生成 AI の利用は一般化しているため、教育環境の変化を踏まえ、実践的な利用を前提とした適切な活用のための教育が重要となるのではないかと、また地域連携について、島根県の強みである製造業やマテリアル産業と学生を結び付け、インターンシップ等を通じて地元就職へ繋げるような一貫的な取組が重要となるのではないかと意見があった。
- 学外委員から、教学 IR データの利活用について、優れた教育手法を教員間で共有できる機会の有無について質問があり、松崎理事から、本年 4 月から授業の原則公開制度を導入しており、他教員が参観可能な環境を整備したため、今後は制度の運用を通じて優れた授業の共有を図っていききたいとの回答があった。続けて学外委員から、教員間の授業参観を可能とする仕組みを通じて、授業の客観的評価や優れた実践の共有が進み、教育改善の迅速化に繋がることが期待されるとの意見があった。
- 学外委員から、PBL 教育における伴走者育成について、参加者同士の学び合いなどを促進するワークショップ形式の活用も有効であるとの発言があった。
- 学外委員から、へるん入試について、高校生の視点に立ち、本学の魅力に結び付けてどのような PR を行っているのかとの質問があり、松崎理事から、へるん入試卒業生による発表会を開催し、高校生や高校教員等に対し、大学での学びや成果を直接伝える取組を進めており、今後は教育内容の充実と学生による発信強化を図り、広報の充実に取り組んでいくとの回答があった。続けて学長から、学生が母校で自身の学びや大学の魅力等を伝える取組を継続するとともに、小中学生段階からの早期の働きかけにより進路意識を醸成し、志願者の確保に繋げていくことが重要である旨の補足があった。
- 学外委員から、益田市で実施している理系人材育成の取組について県内他地域にも展開してはどうかとの意見があり、松崎理事から、距離や費用面の課題を踏まえつつ展開を図っていききたい旨の発言があった。